

はじめに

山梨県立博物館では、『山梨の自然と人との関わりの歴史』を学ぶ場を目指す」とことと『交流』のセンターを目指す」ことの2点を使命として掲げ、その実現に向けて様々な事業活動を実施してまいりました。県内外の皆様にご当館の運営方針について一定の御理解をいただき、おかげをもちまして昨年度（平成22年度）は平成17年10月15日に開館してから開館5周年年度目という区切りの年を迎えることが出来ました。

振り返ってみますと、今までの博物館活動の結果、当館を特徴づける多種多様な成果を挙げてまいりましたが、一方で多くの課題を残したことも事実です。今後、開館10周年年度目に向け、更なる飛躍を遂げるためには、これまでの活動を検証し、改善すべき点を明らかにすることは不可欠のことです。

すでに、当館では県立博物館の諸活動が使命実現に向けて実施され、効果を挙げ得ているのか、それを適切に評価し、運営改善に結びつけていくための体制づくりの一環として、評価制度を導入しています。

その検討にあたっては、県民の代表からなる「みんなでつくる博物館協議会」や有識者からなる「運営委員会」の皆様等の御協力を得ながら進めてまいりました。実際の評価にあたってはNPOと協働して実施する利用者参画型の評価手法「通信簿ツアー」を導入する等、県民参画型の博物館を目指す当館の基本理念が活かされた評価制度となっております。

このように、開館してから5周年年度目までの当館の活動を総括し、様々な立場の皆様によって評価された結果をとりまとめたものが『山梨県立博物館総合評価報告書』です。本報告書で指摘された成果については引き続きこれを発展させ、また課題とされた点については出来る限り、改善に努めてまいり所存です。今後も皆様からの忌憚のない御意見をお寄せいただけますようよろしくお願い申し上げます。

山梨県立博物館

館長 平川 南

目次

はじめに

第 I 章 山梨県立博物館の評価制度

第 1 節 評価制度の検討経緯	1
① 評価制度の必要性	1
② みんなでつくる博物館協議会の設置	1
③ 「みんつく」での検討と評価制度の制定	1
第 2 節 県立博物館の評価制度	3
① 県立博物館の使命	3
② 「県立博物館の使命」実現のための評価制度	3

第 II 章 開館 5 周年度目までの評価結果

第 1 節 評価のとりまとめ	11
第 2 節 「数値評価の達成率」による評価	12
第 3 節 「各活動成果に関する数値評価・自己診断」による評価	15
第 4 節 「通信簿ツアー」による評価	23
第 5 節 総合評価と今後の課題	24

凡例

- ・各事業の経緯・方針・関連法規等については『平成 17 年度山梨県立博物館年報』を参照。
- ・年度ごとにおける各事業の詳細な実施結果については各年度の『山梨県立博物館年報』を参照。
- ・各種委員等の名簿における勤務先・役職等については、全て当時におけるものである。
- ・断りなき限り、各種名簿の順序は順不同である。
- ・敬称は略している。
- ・「県立博物館」・「当館」と表記されているものは、全て山梨県立博物館のことを指す。

第 I 章 山梨県立博物館の評価制度

第 1 節 評価制度の検討経緯

① 評価制度の必要性

山梨県立博物館（以下「県立博物館」）が県民の生涯学習の拠点として開かれた博物館活動を行っていくためには、博物館の活動内容について利用者からの視点を採り入れることが必要である。

また、博物館の活動が独善に陥ることなく、県民へのサービス機能を強化していくには、利用者の視点から博物館の事業活動を適切に評価し、その結果を運営改善に結びつけていく体制づくりが求められている。

以上の理由から県立博物館では評価制度を導入することとした。

② みんなでつくる博物館協議会の設置

県立博物館では、県内外の利用者から親しまれ、高く評価される博物館であることを目指し、「みんなでつくる博物館協議会（以下「みんつく」）」という第三者機関を平成 15 年 4 月 18 日に設置した。この「みんつく」のメンバーは、県内の教育・経済・観光・文化団体など様々な分野に関わる県民の代表から構成され、利用者の視点からよりよい博物館づくりに向け、開館前段階から会議を重ね、現在に至っている。

その内容については具体的に①生涯学習サービス、②アミューズメントの要素の加味、③ボランティア・NPO による県民参画、④地域振興・経済発展につながる博物館活動、⑤県立博物館の評価制度等についてである。

特に、県民の視点に立った博物館評価制度を制定するにあたっては、県民代表による「みんつく」において協議されるのが最も適当であり、県立博物館が開館した平成 17 年度から本格的に評価制度について検討が始められた。

③ 「みんつく」での検討と評価制度の制定

評価制度を検討するにあたっては、具体的かつ詳細にわたる作業であることから、「みんつく」の下に評価小委員会を設けて議論を行い、その検討結果に基づいて「みんつく」全体にて協議をすることとした。「みんつく」委員のうちで互選の結果、5 名が評価小委員会の委員となった。

「みんつく」委員及び評価小委員の名簿は表 1、検討経過については表 2 のとおりである。

【表 1】「みんつく」委員及び評価小委員名簿

氏名	勤務先・役職等	評価小委員会委員
数野妙子	甲府市立琢美小学校教諭	○
秋山俊一	山梨連合教育会会長	
栗田真司	山梨大学教育人間科学部助教授	
小澤龍一	(財) やまなし文化学習協会生涯学習推進センター所長	○
北村 誠	山梨県文化協会連合会会長	
齋藤康彦	山梨郷土研究会理事	
谷口一夫	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館館長	○
新海一男	山梨県中小企業団体中央会常務理事	
牛澤正博	山梨県農業協同組合中央会専務理事	
八田知子	石和温泉観光協会副理事	
中村德行	富士五湖観光連盟副会長	
古屋榮和	社会福祉法人山梨県社会福祉協議会会長	
山本育夫	特定非営利活動法人つなぐ理事長	○
古屋弘和	長期計画審議会	
柴田彩子	長期計画審議会	○

※ 委員の任期は平成 17 年 9 月 1 日から平成 19 年 8 月 31 日までである。

【表2】「みんなつく」での検討経過

開催日時	名称	開催場所
平成17年 9月 14日	平成17年度 第1回みんなで作る博物館協議会全体会	県立博物館
11月 8日	平成17年度 第1回みんなで作る博物館協議会 評価小委員会	県立博物館
12月 14日	平成17年度 第2回みんなで作る博物館協議会 評価小委員会	県立博物館
平成18年 2月 16日	平成17年度 第3回みんなで作る博物館協議会 評価小委員会	県立博物館
3月 27日	平成17年度 第2回みんなで作る博物館協議会全体会	県立博物館
6月 22日	平成18年度 第1回みんなで作る博物館協議会 評価小委員会	県立博物館
8月 30日	平成18年度 第2回みんなで作る博物館協議会 評価小委員会	県立博物館
11月 8日	平成18年度 第1回みんなで作る博物館協議会全体会	県立博物館
平成19年 3月 27日	平成18年度 第2回みんなで作る博物館協議会全体会	県立博物館
6月 28日	平成19年度 第1回みんなで作る博物館協議会全体会	県立博物館

評価制度を検討するにあたり、平成17年度はまず、県立博物館の「使命」について検討を行った。「博物館の使命」とは博物館の目標とするところであり、博物館の全ての活動は、この「使命」の実現に向けて実施されるため、最初に議論を行った。平成18年度は「使命」実現に向けての具体的な評価方法を主に検討を行った。平成19年度はこれまでの議論を踏まえ、「第2節 県立博物館の評価制度」（3～10頁）として案を最終的にとりまとめた。

平成19年9月19日には第8回山梨県立博物館運営委員会を開催し、上記案を付議して各委員の了承を得た。運営委員会とは県立博物館の事業運営上の専門事項について協議するため平成17年12月22日に設置され、事業・運営、調査・研究、展示の企画、その他について協議を行っている。運営委員会の構成員は、県立博物館の運営に関し、専門的知見を有する者からなっている。第8回運営委員会当時の委員名簿は表3のとおりである。

以上の協議を経て、平成19年10月10日に館長決裁を行い、「みんなつく」の案は正式に県立博物館の評価制度として決定した。

【表3】運営委員会委員名簿

氏名	役職など
小澤 龍一（副委員長）	みんなで作る博物館協議会委員長
数野 強	ことぶき勸学院学院長
清雲 俊元（委員長）	山梨郷土研究会理事長 資料・情報委員会委員長
五味 文彦	放送大学教授 東京大学名誉教授
田中 収	元大月短期大学教授
萩原 三雄	帝京大学山梨文化財研究所長

※ 委員の任期は平成17年12月22日から平成19年12月21日までである。

第2節 県立博物館の評価制度

①県立博物館の使命

使命1

■山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史」を学ぶ場を目指します。

山梨県の歴史の特色は豊かで多様な自然に育まれた人々の個性あふれる暮らしの歴史である、とまとめられます。だからこそ「山梨の自然と人との関わりの歴史」を学ぶことは、現在のもとより未来へ開く扉の鍵を探ることにつながるのです。

山梨県立博物館ではその一例として、本県の特色ある生業や富士山への向き合い方、武田氏の動向等々について総合的に資料の収集・調査・研究を行います。そして、その最新の成果を「山梨県の精神の拠り所」として絶えず利用者の皆様に問いかけ、共に考え続けます。

使命2

■山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。

山梨県は、周囲の高い山々によって閉じられた地域という印象を持たれています。ですが、四方を高い山々に囲まれた地域だからこそ、山梨の先人達は昔から活発な「交流」を求めてきました。

こうした歴史にふさわしく、山梨県立博物館は、県内各地の様々な文化施設、史跡・自然をはじめ、県内外の多くの皆様と活発に交流を行います。「交流」のセンターとして、当館を起点に県内各地へと多くの人々の誘導を図り、本県の活性化に絶えず努めます。

②「県立博物館の使命」実現のための評価制度

■県立博物館の評価制度の基本方針

県立博物館の使命を実現させるためには、評価制度の基本方針として次の3点を満たすものとする。

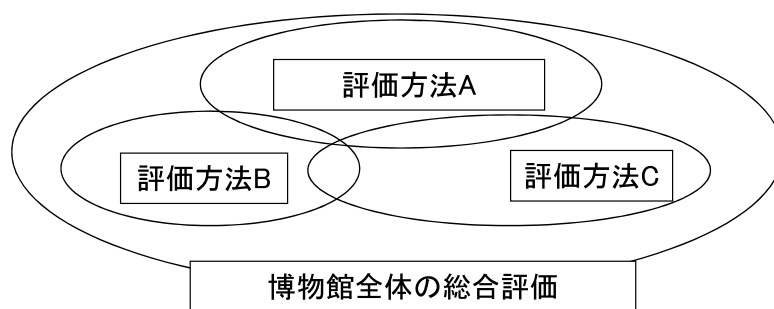
- ・ 県立博物館の活動総体を県内外に周知し、館の運営をより良い方向へと推し進めるための評価であることを第一の目標とする。
- ・ 評価にあたっては県民参画型の方法を導入し、また、外部有識者など第三者を交えた客観性を保った評価方法とする。
- ・ 館の運営の実情に合わせ、柔軟に変化・対応させていくといういわば「成長する評価」とする。

■評価方法

評価方法の具体像については、A「数値評価」、B「自己診断」、C「通信簿ツアー」という複数の評価方法を導入し、それぞれの方法の長所と短所を補いあうものとする。開館5周年年度（平成22年度）までの運営実績に基づき、平成23年度にA～Cそれぞれの観点を踏まえて総合評価を実施する。その関係をまとめたのが次の図1である。

【図1】 評価の体系図

評価方法	評価主体	評価対象	目標到達度を測る基準	評価の客観性	改善の方向
A 数値評価	博物館	数値化可能な項目	目標数値に対する実際の達成度	数値そのものが客観的指標	目標数値
B 自己診断		数値化に なじまない 項目	目標達成に向けて何を行なったか一覧化	博物館による自己点検。運営委員会からの意見がある場合にはそれを記載	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施
C 通信簿ツアー			利用者から見た評価点と改善点の一覧化	利用者の立場からの客観評価	利用者自身によって改善
博物館の総合評価	運営委員会	A～Cの結果に基づき、総合的に評価		県民の立場から、また学術的立場から運営委員会において客観的に評価	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施



※ 評価項目によっては、目標達成のために、複数の評価方法によって検討した方がより効果的な項目もある。

・ A 「数値評価」

県立博物館の事業について、その実績を数値化し得る評価項目に関しては数値目標をたて、その達成を目指す。年度ごとにその成果を年報に記載し、公開する。県立博物館における各活動分野の数値目標をまとめたものが図2（6頁）である。

なお、目標値算出にあたっての詳細は次項「目標値の算出」を参照。

・ B 「自己診断」

県立博物館の事業について、数値化し得ない評価項目については、年度ごとにその成果を年報に記載し、公開する。

・ C 「通信簿ツアー」

利用者が主体的に評価項目の作成、評価の実施、評価に基づく改善まで取り組むという方法。毎年、評価項目の設定を利用者とともに検討し、その都度、内容を更新する。詳細は『平成18年度山梨県立博物館年報』第I編第2章参照。

※ A～Cそれぞれの評価方法に対応する評価項目については表5（8～9頁）を参照

・ 総合評価…

開館5周年目における上記A～C各年度の成果を集約し、運営委員会において運営全体における達成点と課題点についてとりまとめたものを総合評価報告書とし公開するものとする。

総合評価を運営委員会が実施するのは次の理由による。第一に、運営委員会の構成員は第三者の外部有識者から構成され、客観的に県立博物館を評価し得る立場にあること。第二に、運営委員会構成員には県民の代表たる「みんなつく」の委員長、また、学術的立場から資料情報関係について審議する県立博物館資料・情報委員会委員長が加わっている。県民の立場から、また、学術的立場から県立博物館の運営について総合的に評価を行い得る立場にあるということからである。

また、総合評価の対象として開館5周年度に設定したのは次の理由による。第一に、県立博物館の主要活動分野である調査・研究の進展と、その成果が展示として実現されるには一定程度の時間を必要とすること。第二に、全国の博物館の実績からしても、開館当初は開館ラッシュによって利用者数が異常値を示し、館運営の実情を把握するには利用者数が落ち着くおよそ開館5周年段階におけるものが適当と判断されたことからである。

■数値評価の目標値

i 山梨県と他県博物館との比較

目標値を算出するにあたり、まず山梨県立博物館とほぼ同性格、同規模館のある県を比較することとした。具体的には香川県（香川県歴史博物館 現 香川県立ミュージアム）・宮城県（東北歴史博物館）・愛媛県（愛媛県歴史文化博物館）・新潟県（新潟県立歴史博物館）が挙げられる。これらの県と山梨県とを県人口・県面積・人口密度で比較すると、本県は他県のおよそ6割（58.1%）程度でしかない。また、博物館の規模にしても、山梨県立博物館は他県の館のおよそ6割（55.8%）である。総じて、山梨県は他県のおよそ6割程度である。

ii 他県博物館の展示観覧者数から算出した目標値

他県博物館との比較において、同一の基準で算出し得るのは展示観覧者数の実績のみである。ただし、山梨県の規模からすれば、単純に他県の平均値を目標とすることは不適當である。目標値の設定にあたり、本県は他県の6割程度であることを考慮に入れた数値とすべきである。

これらを踏まえ、他県4館と県立博物館の実績をとりまとめたのが表4である。

【表4】 他県博物館と県立博物館との実績比較

	他県博物館の実績… (A)	(A) × 他県の6割… (B)	山梨県立博物館における実績… (C)
開館年	86,636 人	51,981 人	98,578 人
開館1周年	167,709 人	100,625 人	124,182 人

表4によると、他県の実績 (A) に、他県の6割という本県の規模を乗算した場合 (B)、山梨県立博物館の実績 (C) は優に当該数値 (B) を凌駕している。

したがって、他県の6割 (B) を目標とすると、現時点ではハードルが低いと思われる。そこで、館運営にあたっての「意気込み」を一層高めるため、目標値を高水準に設定し、他県平均値の9割を目標とする。

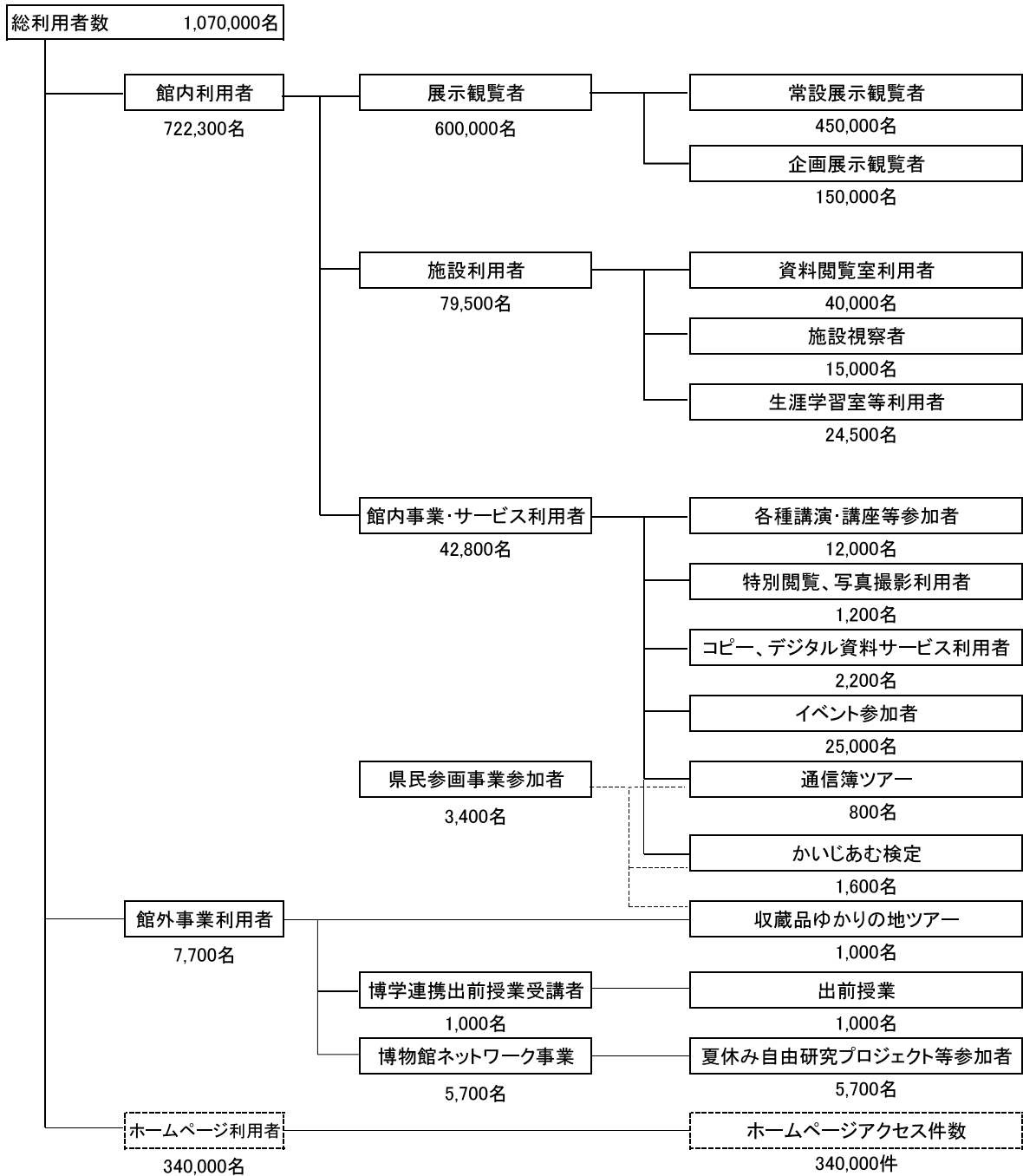
iii 県立博物館の目標値の算出

県立博物館の総合評価の対象となるのは開館5周年度までの実績である。他県における開館5周年度目における展示観覧者数の平均は682,052人。そこで、他県平均値の9割を目標とすると、山梨県立博物館の開館5周年度目（平成22年度）には613,847人が目指すべき目標値となる。

この目標値を達成させるためには、年間の展示観覧者数およそ100,000人（102,307人）という計算となる。本数値を基準とし、さらに各活動分野における平成17・18年度の実績を勘案して当館における各活動分野の目標値を示したのが図2（6頁）である。

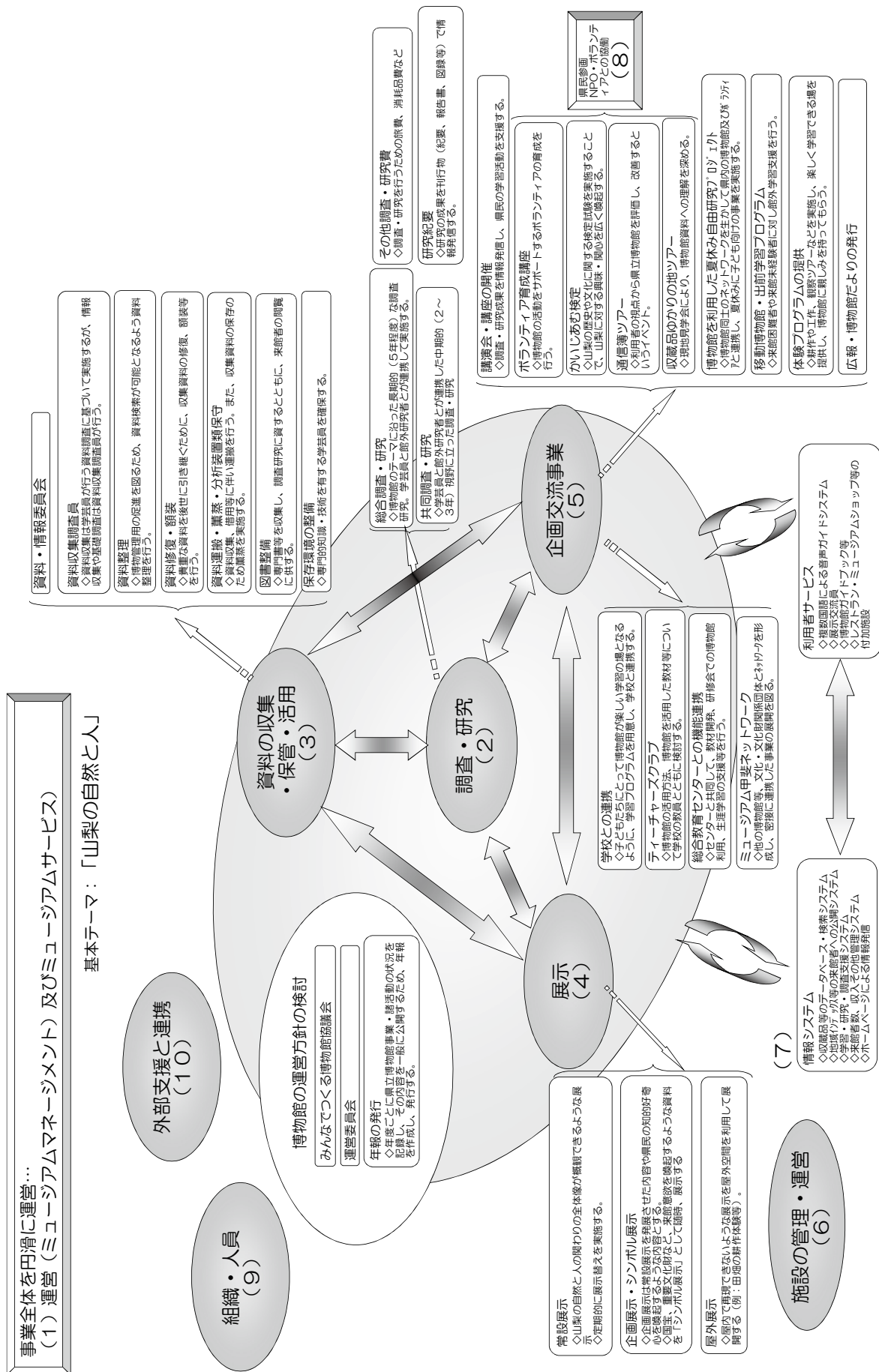
【図 2】 県立博物館開館 5 周年目における各活動分野の目標値

○「総利用者数」とは、当館の施設、提供するサービスを利用した者および当館の事業活動に参加した全ての利用者数の統計である。尚、一部の利用者数については、重複して統計に表れる性質がある。



※県民参画事業のうち、交流拠点形成事業及びわいわいミュージアムは平成 18 年度で終了した。替わりに平成 19 年度からはかいじあむ検定、通信簿ツアーが新規に実施された。このため、平成 17～22 年度までの目標値を示すにあたり、かいじあむ検定の場合は平成 18 年度迄の交流拠点形成事業の実績を、通信簿ツアーの場合は平成 18 年度迄のわいわいミュージアムの実績をそれぞれ足すものとする。

【図3】 県立博物館事業体系図



【表5】 評価項目

		使命 1	使命 2
博物館の活動分野		使命1に対応した活動目標	使命2に対応した活動目標
		活動目標に対応した評価項目	活動目標に対応した評価項目

山梨県立博物館の使命	使命 1 : 山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わり」の歴史を学ぶ場を目指します。	使命 2 : 山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。
(1) 運営(ミュージアムマネジメント)及びミュージアムサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館が整備されて良かったと思われる博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努めます。具体的には開館5周年目で107万人の総利用者数を目指します。 山梨県立博物館がどのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者ともに共通の理解を得られるように努めます。 博物館の使命がどの程度達成できたのかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力をします。 博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に御満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努めます。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者の側からの評価の声を受け入れ、その結果を公開します。 かいじあむ検定を実施し、県立博物館及び山梨県への興味・関心が深められるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 総利用者数(評価方法A) 館員及び利用者を対象として、博物館使命がどの程度認知されているのかの調査(評価方法C) 利用者の視点に立った目標を設定しているか?(評価方法B) 目標の達成状況については、自己及び他者評価を行い、その結果を公開しているか?(評価方法B・C) かいじあむ検定参加者数及び合格者数(評価方法A)
(2) 調査・研究について	<ul style="list-style-type: none"> 学術機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わり」の歴史をテーマとした調査・研究を精力的に実施し続けます。その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究の積極的実施にも努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努めます。
(3) 資料の収集、保存及び活用について	<ul style="list-style-type: none"> 資料保存機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わり」の歴史を明らかにする上で必要な資料の収集・保存・活用を努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集点数(評価方法A) 年間の展示資料点数(どれだけ展示替えを行っているのか?)(評価方法A) 個々の資料について適切に資料保存・修復措置を行っているか?(評価方法B) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要や調査報告書類の作成・発行を行っているか?(評価方法B) 館主催諸講座の開催数(評価方法A) 館職員の館外担当講座数(出前授業も含む)(評価方法A)
(4) 展示について	<ul style="list-style-type: none"> 展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関わり」の歴史像を積極的に多くの人々に向けて発信し続けます。具体的目標としては、開館5周年目で60万人の利用者数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場との連携を深め、子ども達が楽しみながら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続けます。具体的には開館5周年目で46,000人の学校利用者数を目指します
	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の利用者数(評価方法A) 常設展示の印象に関わるアンケート調査(評価方法CまたはB) 企画展利用者数(評価方法A) 企画内容や展示手法の満足度に関するアンケート調査(評価方法CまたはB) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場の観覧者数(評価方法A)

(5) 企画交流活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外に対し、「山梨の自然と人との関わりの歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努めます。 ・県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努めます。具体的には開館5周年目で7,700人の人々を県内各地に誘導することを目指します
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間における企画交流活動数及びその参加者数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・博学連携に関わる取り組み（評価方法B） ・各種連携事業の実施件数及び参加者数（評価方法A） ・各種連携事業を実施するにあたりどのような工夫を行っているか？（例えば、ハブ博物館ネットワーク会議での議事結果など）（評価方法B） ・地域インデックスの活用策を企画・実行したか？（評価方法B）
(6) 施設の整備・管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努めます。 ・魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなどを積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館5周年目で79,500人の利用者数を目指します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災等の緊急事態に対して、職員の研修をはじめとした対応を行っているか？（評価方法B） ・緊急の傷病者への対応に関して、職員の研修をはじめとした対応を行っているか？（評価方法B） ・バリアフリー対策を行っているか？（評価方法B） ・資料保存について措置を講じているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対する施設開放件数及び利用者数（例えば、生涯学習室の貸し出しなど）（評価方法A）
(7) 情報の発信と公開について	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶ」ことについて支援することに努め、レファレンスをおし5年間で7,000人が知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばHPをおとした場合は34万件のアクセス数を目指します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス対応件数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような情報をどのような媒体で情報発信しているのか一覧表化がなされているか？（評価方法B） ・HPアクセス数（評価方法A）
(8) 市民参画について	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動の実施し、共同事業では開館5周年目で3,400人と交流できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視点から博物館の評価を行い、その成果を博物館の運営改善に向けて反映するよう努めます
	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOや協働会（ボランティア）との協働事業開催件数及び参加者数（評価方法A） ・協働会（ボランティア）の登録者数（評価方法A） ・協働会（ボランティア）ではどのような活動を実施したのか一覧表化がなされているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者による博物館評価を実施し、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法BまたはC）
(9) 組織・人員について	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者機関（運営会議、みんつく、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B）
(10) 外部支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部支援体制の導入に努めます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか？（評価方法B） 	

■評価項目

県立博物館の全ての事業活動は「県立博物館の使命」の実現に向けて実施される。事業活動の全体と各業務同士の関係をとりとまとめたものが図3（7頁）である。図3のそれぞれの事業活動は使命の実現に向けて活動目標（目指すところ）が定められ、その達成度を測るために評価項目・評価方法が設定されている。それぞれの対応関係を示したものが表5（8～9頁）である。

まず、表5の縦軸方向は県立博物館が行う事業活動の一覧であり、(1)運営(ミュージアムマネジメント)及びミュージアムサービス、(2)調査・研究、(3)資料の収集・保管・活用、(4)展示、(5)企画交流事業、(6)施設の整備・管理、(7)情報の発信と公開、(8)県民参画、(9)組織・人員、(10)外部支援という10の分野から成る。

次に表5の横軸方向では、それぞれの事業活動ごとに上・下段、左・右列に分かれている。

上段は各事業における県立博物館の使命実現に向けての活動目標（目指すところ）、下段はその活動目標の達成度を図るための評価項目（指標）が設定されている。

左・右列はそれぞれ県立博物館の使命1と使命2に対応した活動目標と評価項目が設定されている。なお、左・右列にまたがる事業活動分野は使命1・2の双方に関わる活動目標・評価項目であることを示している（(1)運営(ミュージアムマネジメント)及びミュージアムサービス・(10)外部支援）。

以上の関係を総合的に捉えることで、「県立博物館の使命」達成度を測る指標とする。

■評価結果の公開

A～Cについての年度ごとの実績については県立博物館でとりまとめ、各年度における『山梨県立博物館年報』（以下『年報』）において記載する。

総合評価については、数値評価の目標として設定した開館5周年度（平成22年度）までの実績に基づき、平成23年度に運営委員会にて総合的に評価を行い、評価報告書としてとりまとめるものとする。

以上のとおり、事業活動全にわたって恒常的に自己点検を行い、外部からの評価を取り入れることで、県立博物館の活動総体をより良い方向へと推し進めていく。

第Ⅱ章 開館5周年度目までの評価結果

第1節 評価のとりまとめ

■運営委員会での検討

第Ⅰ章第2節で述べた制度に基づき、開館5周年度目までの実績と課題をとりまとめ、平成23年11月4日の第21回運営委員会及び平成24年3月1日の第22回運営委員会にそれぞれ付議した。当該運営委員会の委員名簿は表6のとおりである。

【表6】 運営委員会委員名簿

氏名	勤務先・役職等
小澤 龍一（副委員長）	元(財)やまなし文化学習協会生涯学習センター所長 みんなでつくる博物館協議会委員長
清雲 俊元（委員長）	山梨郷土研究会理事長 資料・情報委員会委員長
五味 文彦	放送大学教授 東京大学 名誉教授
萩原 三雄	(財)帝京大学 山梨文化財研究所所長
守屋 正彦	筑波大学教授
早川 源	地域シンクタンク 山梨総合研究所 副理事長

※委員の任期は平成22年6月2日から平成24年6月1日までである。なお、早川委員は平成23年3月25日から委嘱された。

次節以降に述べるのは、上記委員会において承認を得た当館の達成点と課題についてである。本結果についての達成点については館運営の強みとしてより一層、館運営に活用していくこととし、課題とされた点については早急に解決を図り、適切な館運営の継続化に努めたい。

■「図1 評価の体系図」との対応

本章各説に掲げる評価結果と図1（4頁）における各評価方法との対応関係は次のとおりである。

- ・ A 「数値評価」 …
本章第2節「数値評価の達成率」による評価（12～14頁）
- ・ A 「数値評価」及びB 「自己診断」 …
本章第3節「各活動成果に対する数値評価・自己診断」による評価（15～22頁）
- ・ C 「通信簿ツアー」 …
本章第4節「通信簿ツアー」による評価（23頁）
- ・ 「総合評価」 …
本章第5節 総合評価と今後の課題（24頁～）

■各年における事業活動の詳細

第Ⅰ章「評価結果の公開」（10頁）で述べたとおり、各年度の実績の詳細については、当該年度の『年報』において記載しているので、御参照いただきたい。次節以降の評価は平成17年度から平成22年度までの『年報』に記載された事項に基づいてなされたものである。

なお、各年度の『年報』は当館HPに掲載し、全文PDFファイル形式でのダウンロードが可能である。

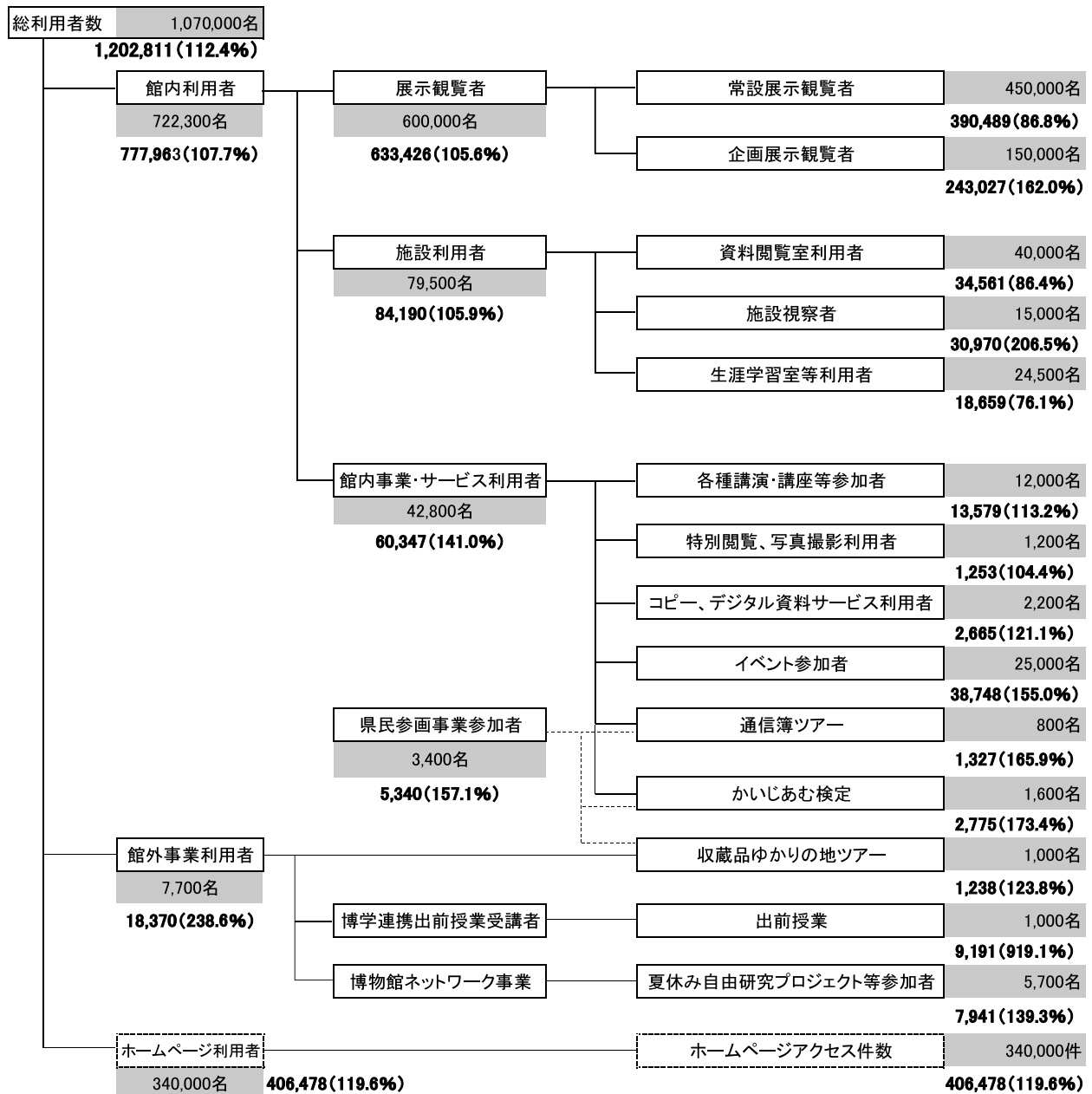
アドレス：http://www.museum.pref.yamanashi.jp/2nd_news.htm

第2節 「数値評価の達成率」による評価

■各活動分野の実績値

図2（6頁）で掲げた目標値に対する実績について図化したものが次の図4、また、各年度における月ごとの実績値をとりまとめたのが次頁の表7である。

【図4】 県立博物館開館5周年年度目までの各活動分野の目標値と達成率



※1 アミカケは図2（6頁）に掲げた開館してから平成22年度末（開館5周年年度末）までの目標値

※2 太字の数字は開館してから平成22年までの実績値（表7 13～14頁参照）

※3 ()内は目標に対する実績の達成率。(平成22年度末までの実績値/平成22年度末までの目標値) × 100 = 達成率 (%)

【表7】 県立博物館開館5周年度目までの統計

■開館年度(平成17年度)から平成22年度までの年度別統計

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者					ホームページ利用者
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参与事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設視察者	生涯学習室 等利用者	講義・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	ホームページ 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあむ 検定									
17年度	143,415	114,412	98,578	66,274	32,304	10,889	6,085	1,190	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	433	282	151	0	28,570
18年度	221,107	149,254	124,182	92,277	31,905	16,043	7,957	3,674	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	1,451	195	156	1,100	70,402
19年度	203,261	126,055	105,596	66,291	39,305	13,908	7,306	3,486	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	4,833	166	1,317	3,350	72,373
20年度	169,893	97,551	73,419	49,634	23,875	12,461	4,754	4,262	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	2,781	180	1,076	1,525	69,561
21年度	233,815	145,172	119,288	59,508	59,780	13,034	4,399	6,640	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	5,194	274	3,871	1,049	83,449
22年度	231,320	145,519	112,363	56,505	55,858	17,855	4,060	11,718	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	3,678	141	2,620	917	82,123
計	1,202,811	777,963	633,426	390,489	243,027	84,190	34,561	30,970	18,659	60,347	13,579	1,253	2,665	38,748	1,327	2,775	18,370	1,238	9,191	7,941	406,478

■県立博物館利用者状況(月別集計)

I 平成17年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者					ホームページ利用者
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参与事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設視察者	生涯学習室 等利用者	講義・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	ホームページ 資料サービス利用	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	交流拠点 形成事業									
10月	31,143	26,122	23,807	13,447	10,360	2,031	1,444	53	534	284	0	34	24	40	80	106	221	100	121	0	4,800
11月	47,428	41,648	35,839	19,396	16,443	2,986	1,497	581	908	2,823	290	10	44	2,379	50	50	0	0	0	0	5,780
12月	15,456	12,062	10,606	6,976	3,630	1,119	699	207	213	337	41	10	36	200	50	0	30	0	30	0	3,364
1月	15,491	10,649	8,817	8,817	0	1,178	757	116	305	654	349	6	27	272	0	0	95	95	0	0	4,747
2月	15,211	10,702	8,280	8,280	0	1,980	777	143	1,060	442	310	15	41	0	0	76	0	0	0	0	4,509
3月	18,686	13,229	11,229	9,358	1,871	1,595	911	90	594	405	331	17	37	20	0	0	87	87	0	0	5,370
計	143,415	114,412	98,578	66,274	32,304	10,889	6,085	1,190	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	433	282	151	0	28,570

II 平成18年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者					ホームページ利用者
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参与事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設視察者	生涯学習室 等利用者	講義・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	ホームページ 資料サービス利用	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	交流拠点 形成事業									
4月	33,113	26,393	24,209	13,691	10,518	1,473	918	361	194	711	281	22	46	362	0	0	0	0	0	0	6,720
5月	26,800	20,095	17,380	10,936	6,444	1,710	902	227	581	1,005	142	9	42	812	0	0	35	35	0	0	6,670
6月	14,418	9,058	7,070	7,070	0	1,638	472	180	986	350	220	15	35	40	0	40	0	0	0	0	5,360
7月	16,310	9,928	8,276	7,412	864	1,124	524	325	275	528	295	11	37	185	0	0	1,230	130	0	1,100	5,152
8月	23,863	18,175	13,469	9,358	4,111	1,901	706	755	440	2,805	40	15	46	2,664	40	0	0	0	0	0	5,688
9月	11,693	6,787	5,183	5,183	0	867	454	161	252	737	255	28	24	390	0	40	0	0	0	0	4,906
10月	20,901	14,726	13,051	9,447	3,604	1,169	466	362	341	506	305	20	36	15	85	45	14	0	14	0	6,161
11月	25,607	19,316	16,608	10,244	6,364	2,034	727	785	522	674	181	27	51	395	20	0	142	30	112	0	6,149
12月	6,853	2,879	2,123	2,123	0	472	294	68	110	284	200	34	40	10	0	0	0	0	0	0	3,974
1月	11,948	6,057	4,699	4,699	0	895	544	110	241	463	135	24	44	260	0	0	0	0	0	0	5,891
2月	14,666	8,548	6,740	5,218	0	1,416	1,039	197	180	392	120	31	31	10	200	0	30	0	30	0	6,088
3月	12,531	4,888	2,970	6,896	0	1,344	911	143	290	574	430	27	47	70	0	0	0	0	0	0	7,643
計	221,107	149,254	124,182	92,277	31,905	16,043	7,957	3,674	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	1,451	195	156	1,100	70,402

III 平成19年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者					ホームページ利用者
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参与事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設視察者	生涯学習室 等利用者	講義・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	ホームページ 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあむ 検定									
4月	30,909	21,615	18,850	8,909	9,941	1,563	959	564	40	1,202	383	16	63	740	0	0	21	0	21	0	9,273
5月	33,933	25,096	20,770	10,706	10,064	2,381	1,241	674	466	1,945	169	22	69	1,685	0	0	25	0	25	0	8,812
6月	10,712	5,029	3,938	3,938	0	735	455	170	110	356	209	18	39	90	0	0	220	70	150	0	5,463
7月	15,437	8,086	6,452	5,310	1,142	1,328	583	289	456	306	90	10	51	115	0	40	1,166	0	1,000	0	6,185
8月	22,213	13,208	11,078	7,064	4,014	1,838	874	645	319	292	20	22	62	68	120	0	2,350	0	2,350	0	6,655
9月	11,719	6,282	5,134	4,818	316	860	586	59	215	288	80	16	33	140	0	19	22	0	22	0	5,415
10月	19,241	12,409	10,681	7,034	3,647	1,377	562	377	438	351	112	26	32	50	120	11	175	46	129	0	6,657
11月	20,891	14,587	12,593	6,883	5,710	1,315	674	361	280	679	106	18	31	524	0	0	328	50	278	0	5,976
12月	5,544	2,051	1,549	1,549	0	442	242	13	187	60	0	19	23	18	0	0	0	0	0	0	3,493
1月	13,095	7,970	6,790	3,395	3,395	673	415	70	188	507	209	14	33	251	0	0	435	0	435	0	4,690
2月	12,557	7,760	6,740	2,916	1,076	765	342	179	244	255	28	14	33	30	0	150	91	0	91	0	4,706
3月	8,959	3,911	2,970	3,769	0	631	373	85	173	310	109	24	27	150	0	0	0	0	0	0	5,048
計	203,261	126,055	105,596	66,291	39,305	13,908	7,306	3,486	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	4,833	166	1,317	3,350	72,373

第II章 開館5周年年度目までの評価結果

iv 平成20年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者				ホームページ 利用者	
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参画事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 等利用者	資料閲覧室 利用者	施設観察者 等利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	コピー・デジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあひむ 検定							
4月	19,968	12,438	10,659	4,733	5,926	1,302	642	569	91	477	360	11	40	66	0	0	17	0	17	0	7,513
5月	16,904	10,578	8,583	6,144	2,439	894	551	242	101	1,101	40	15	45	1,001	0	0	117	0	117	0	6,209
6月	12,937	6,831	5,025	5,025	0	1,467	435	540	492	339	116	28	65	130	0	0	231	0	231	0	5,875
7月	13,553	6,442	4,315	3,128	1,187	1,146	374	402	370	681	149	19	55	328	0	130	1,547	0	22	1,525	5,864
8月	15,882	9,461	6,917	4,334	2,583	1,373	536	511	326	1,171	134	33	49	805	90	60	0	0	0	0	6,421
9月	9,282	4,165	3,454	3,418	36	478	207	78	193	233	54	32	22	125	0	0	0	0	0	0	5,117
10月	16,541	10,540	7,473	5,308	2,165	1,361	381	594	386	1,706	164	25	38	1,426	53	0	157	45	112	0	5,844
11月	22,273	16,217	11,042	6,377	4,665	1,421	499	493	429	3,754	203	23	61	3,317	0	150	120	0	120	0	5,936
12月	8,875	4,046	2,914	1,996	918	1,010	222	362	426	122	48	16	25	33	0	0	315	45	270	0	4,514
1月	10,166	4,982	3,327	3,068	259	425	300	125	0	1,230	186	13	48	983	0	0	167	90	77	0	5,017
2月	13,924	8,297	6,740	3,370	3,370	918	341	269	308	639	93	21	40	373	0	112	80	0	80	0	5,547
3月	9,588	3,854	2,970	2,733	237	666	266	77	323	218	102	29	61	26	0	0	30	0	30	0	5,704
計	169,893	97,551	73,419	49,634	23,785	12,461	4,754	4,262	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	2,781	180	1,076	1,525	69,561

v 平成21年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者				ホームページ 利用者	
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参画事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 等利用者	資料閲覧室 利用者	施設観察者 等利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	コピー・デジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあひむ 検定							
4月	11,848	5,083	4,212	3,379	833	597	258	298	41	274	156	35	53	30	0	0	69	0	69	0	6,696
5月	24,874	17,237	13,464	6,529	6,935	1,236	463	657	116	2,537	415	27	66	2,029	0	0	388	0	388	0	7,249
6月	15,325	8,315	6,910	3,843	3,067	1,068	345	421	302	337	147	33	41	116	0	0	495	0	495	0	6,515
7月	20,458	11,961	9,911	5,229	4,682	1,243	336	640	267	807	158	30	39	131	0	449	920	0	219	701	7,577
8月	28,045	20,119	16,422	7,568	8,854	1,451	626	779	46	2,246	623	29	57	1,378	159	0	391	0	131	260	7,535
9月	11,489	5,402	3,776	2,979	797	568	244	149	175	1,058	328	24	24	215	0	467	289	0	239	50	5,798
10月	17,367	10,652	8,760	4,737	4,023	1,388	308	731	349	504	263	18	33	118	72	0	662	167	457	38	6,053
11月	19,242	12,584	9,898	4,949	4,949	1,084	355	579	150	1,602	398	27	33	1,041	0	103	922	45	877	0	5,736
12月	8,706	2,789	2,113	2,113	0	408	163	63	182	268	215	27	21	5	0	0	409	62	347	0	5,508
1月	11,106	4,137	2,728	2,728	0	564	315	82	167	845	169	28	41	607	0	0	0	0	0	0	6,969
2月	18,699	9,447	6,740	7,584	11,597	1,521	474	877	170	1,186	416	21	43	506	0	200	314	0	314	0	8,938
3月	15,272	6,062	2,970	7,870	14,043	1,906	512	1,364	30	1,186	265	31	37	853	0	0	335	0	335	0	8,875
計	233,815	145,172	119,288	59,508	59,780	13,034	4,399	6,640	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	5,194	274	3,871	1,049	83,449

vi 平成22年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)														館外利用者				ホームページ 利用者	
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)						国民参画事業 取組品のほか の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ネットワーク事業			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 等利用者	資料閲覧室 利用者	施設観察者 等利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	コピー・デジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあひむ 検定							
4月	17,880	10,269	8,524	4,647	3,877	952	275	527	150	793	151	4	44	594	0	0	271	0	271	0	7,340
5月	41,564	33,856	22,829	9,926	12,903	4,522	440	3,749	333	6,505	357	8	31	6,109	0	0	105	0	105	0	7,603
6月	12,290	5,257	3,896	3,896	0	815	335	305	175	546	346	14	47	139	0	0	424	0	424	0	6,609
7月	22,042	12,699	10,726	4,743	5,983	1,424	453	742	229	549	167	9	62	311	0	0	1,031	0	234	797	8,312
8月	49,280	39,246	33,573	12,176	21,397	2,821	1,018	1,671	132	2,852	213	6	48	2,397	188	0	140	0	140	0	9,894
9月	10,034	3,817	2,850	2,850	0	380	199	63	118	587	524	6	26	31	0	0	80	0	80	0	6,137
10月	20,128	12,120	10,075	5,386	4,689	986	298	563	125	1,059	730	10	33	82	0	204	248	43	205	0	7,760
11月	19,133	12,156	9,688	4,744	4,944	1,778	362	1,231	185	690	144	11	41	494	0	0	598	42	556	0	6,379
12月	7,965	3,392	2,595	1,713	882	704	151	342	211	93	0	5	29	59	0	0	70	0	70	0	4,503
1月	9,989	4,092	2,605	2,605	0	394	222	92	80	1,093	143	6	33	657	0	254	339	56	163	120	5,558
2月	10,118	4,239	2,046	2,046	0	1,907	184	1,569	154	286	67	4	32	114	0	69	272	0	272	0	5,607
3月	10,897	4,376	2,956	1,773	1,183	1,172	123	864	185	248	95	1	18	134	0	0	100	0	100	0	6,421
計	231,320	145,519	112,363	56,505	55,858	17,855	4,060	11,718	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	3,678	141	2,620	917	82,123

第3節 「各活動成果に対する数値評価・自己診断」による評価

表5（8～9頁）の「評価項目」に対する数値評価と自己診断結果は次のとおりである。各事業活動ごとに【目標】・【成果】・【自己評価】の順でまとめている。

各種実績は何れも平成17年度から平成22年度末までの成果である。

（1）運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービスについて

【目標】

- 山梨県立博物館が整備されて良かったと思われる博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努める。具体的には開館5周年目で107万人の総利用者数を目指す。
- 山梨県立博物館がどのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者ともに共通の理解を得られるように努める。
- 博物館の使命がどの程度達成できたのかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力を行う。
- 博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努める。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者の側からの評価の声を受け入れ、その結果を公開する。

【成果】

- 総利用者数
 - ・開館5周年目の総利用者数は1,202,811人で、目標に対して112.4%の達成率であった。個別項目における結果については図4及び表7参照（12～14頁）。
- 利用者の視点に立った目標の設定
 - ・山梨県立博物館が整備されて良かったと思われる博物館づくりを実現させるために、評価制度を構築して自ら目標設定を行い、その達成に向けて運営努力を行ってきた。
 - ・評価制度の構築にあたっては、県民の代表からなる「みんなで作る博物館協議会」で検討を加え、博物館の有識者からなる「運営委員会」において議論を踏まえて構築した。その過程と評価制度そのものについては『年報』等において公開をした。
- 目標の達成状況に関する評価と公開
 - ・毎年、博物館全事業の自己点検を行い、活動成果を一般に公開するために『年報』を刊行し、運営の適切化を図った。また、これらの評価についてホームページ上で公開した。
 - ・利用者参加型の評価制度である「通信簿ツアー」を平成18年度から実施し、その結果に基づき改善を行ってきた。

【自己評価】

- 総利用者数の達成率は、館内部において随時、事業の見直しを行いながら運営の適切化を図るよう努めていたことに加え、県内外の様々な個人・団体と強い連携体制を築き、さらに「運営委員会」「みんなつく」「資料・情報委員会」等の第三者機関での検討結果を実際に反映させてきた結果である。
- 来館者アンケートを集計し、毎朝のミーティングで職員に周知するとともに、結果や効果、原因などを検討し、短所や不具合の改善、長所の促進などに活用した。

（2）調査・研究について

【目標】

- 学術機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わりの歴史」をテーマとした調査・研究を精力的に実施し続ける。その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究の積極的実施にも努める。
- 調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努める。

【成果】

- 館主催諸講座及び館職員の館外担当講座の具体的実施状況については、各年度の『年報』で情報発信するとともに、講座や展示、新聞記事などを通じて、調査研究成果を積極的に公開するよう努めた。
- 調査研究成果の公開として、毎年『研究紀要』を作成し、共同調査報告の結果については終了次第、順次『報告書』を刊行している。開館5周年度迄に紀要5冊、報告書5冊を刊行した。
- 館主催の諸講座、生涯学習推進センター講座などの開催数 201回
- 館職員の館外担当講座数（出前講座を含む） 240回
- 平成20年度から大韓民国 国立清州博物館と学術交流協定を結び国際的規模での共同調査研究体制を構築している。
- 平成21年度には文部科学省から研究機関に指定され、科学研究費補助金（科研費）の受給申請が出来る研究機関となった。これまで科研費補助金が2件採択されたほか、民間助成金を5件受けた。
- 文化財集中地区特別総合調査（文化庁・山梨県教育委員会）、富士山世界文化遺産学術調査など県の施策的事業に積極的に関わることで、研究の社会的還元を図っている。

【自己評価】

- 博物館の調査・研究活動の中で、「善光寺阿弥陀三尊像の両脇侍内の像内納入鏡」、「縄文時代の栽培ダイズ」、「山本菅助関連文書」、「戦国期の金精錬技術」など従来の歴史を見直す発見があったほか、各研究分野において多くの学術的な蓄積がなされた。
- 国宝 小桜韋威鎧 兜・大袖付（菅田天神社蔵）や、重要文化財 木造阿弥陀如来 及両脇侍像（善光寺蔵）のような、山梨のみならず日本を代表する文化財を対象とした調査・研究を進展させた。
- これらの研究成果のうち、共同研究「古代の交易と道」が企画展「甲斐道をゆく－交流の文化史」に、個別研究「内陸部における生業復元方法の研究」が「甲州食べもの紀行－山国の豊かな食文化－」に反映されるなど、そのほとんどが当館で開催された企画展やシンボル展、または民俗芸能の実演会や「かいじあむ講座」などの博物館事業に反映された。これらをとおして、博物館の基本テーマ「山梨の自然と人」の歴史に対する、県内外の人々の理解と関心が高まった。
- 甲府道祖神祭の幕絵の研究が、甲府商工会議所によるレプリカ制作やイベント開催に反映されたほか、信玄堤など山梨の治水・利水史研究内容が、県環境科学研究所でパネル公開されるなど、博物館における調査・研究の成果が、県内における様々な事業の展開に貢献している。
- 博物館の調査・研究体制が整備され、調査・研究の実績が蓄積された結果、博物館が文部科学省の研究機関に指定されて科研費を受給できるようになり、外部資金の調達をとおして県費を補うことができるようになった。また、博物館の学芸員が、文部科学省と山梨県教育委員会の共同調査や富士山世界文化遺産学術調査に積極的に参加し、県をあげた事業の展開に貢献している。
- 博物館の調査・研究を県内外の研究者と連携して行ったほか、大韓民国 国立清州博物館との学術交流協定締結による職員の受け入れを行い、調査・研究をとおした交流活動が博物館を拠点として生み出されている。
- 専門的な学術研究の成果を展示や講演会などを利用して、広く県民に周知し、山梨の歴史に対する興味を高めるように工夫した。
- 今後は、調査・研究をとおした博物館の交流活動が広がっていくために、大学などの教育・研究機関と連携した調査・研究の展開が必要となる。

(3) 資料の収集、保存及び活用について

【目標】

- 資料保存機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わりの歴史」を明らかにする上で必要な資料の収集・保存・活用に努める。
- 収集及び保管・調査資料の利用体制の充実化をはかる。これら資料の目録化（データベース化）を進め、館内外の人々にとって共に積極的な活用が可能となるように努める。

【成果】

- 資料の収集点数 219,559 点
 - ・収集資料のうち、国重要文化財 2 点（「紙本淡彩陶道明聴松図」「絹本着色法然上人絵伝」）の他、県指定文化財 7 点が指定されている。
- 常設展示の展示替えを年間 6 回 2 箇月ごとに行い、展示資料についてホームページで公開すると共に、各年度の『年報』で一覧化している。
- 資料保存と修復措置
 - ・収集した資料をより良い状態で伝えるために、収蔵庫、展示室をはじめ館内にデータロガー、毛髪式自記記録計を設置し、5 分間隔で温湿度のデータを集積している。その結果に応じて、適切な保存措置を講じている。
 - ・修復・額装措置 24 件
- データベース化が図られている資料数 83,082 件、図書件数 35,107 件
 - ・山梨県立博物館ホームページにおいて、検索可能。
- 資料の特別閲覧・写真撮影利用者、コピー・デジタル資料サービス利用者の 5 周年度目までの実績は 2,665 件。（達成率 121.1%）
- 利用者から要望が強かった資料の即日閲覧に対応するシステムを整備した。
- 館内の古文書相談日を隔月で行う他、年間 5 回県内市町村に出向いての出張古文書相談を行っている。
- 県史編さん室から博物館が引きついで一次資料は 20,595 点、二次資料は 282,853 点である。一次資料については、所蔵者から寄贈・寄託の手続きを行い、資料公開を進めている。二次資料については現在データベース化をほぼ終了し、一般公開に向けて準備を進めている。

【自己評価】

- 資料情報に関して博物館ホームページなどを利用し積極的に公開を図ってきた結果、資料閲覧室を利用して資料調査や学習を行う利用者が確実に定着化してきている。また、個人や市町村などからの質問や調査の依頼に関しても積極的に対応してきた。
- 県内文化財について、所蔵者や県市町村に保存管理や修復について助言や支援を行う他、保管のため寄託を受けるなど、文化財保護に努めている。その結果、県民からの信頼を得て、寄贈・寄託に関する依頼や相談も増加している。
- また、資料保存に関しては、他県や県内市町村から相談を受け、その取り扱いに関する助言や支援を行っている。
- 武田信玄像や富嶽三十六景など県内外の関心を集める収蔵資料は、情報や画像提供の要望に応えることができるとともに、山梨県立博物館の存在を広報する役割も果たしている。
- 大学の授業やゼミでの資料の活用など、新たな利用者層の拡大に向けた取り組みが必要である。

(4) 展示について**【目標】**

- 展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」像を積極的に多くの人々に向けて発信し続ける。具体的目標としては、開館 5 周年度目で 60 万人（常設展示 450,000 人、企画展示 150,000 人）の利用者数を目指す。
- 学校教育の現場との連携を深め、子ども達が楽しみながら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続ける。具体的には開館 5 周年度目で 46,000 人の学校利用者数を目指す。

【成果】

- 展示の利用者数 633,426 名（達成率 105.6%）
 - ・常設展示の利用者数 390,489 名（達成率 86.8%）
 - ・企画展示の利用者数 243,027 名（達成率 162.0%）
- 年間展示数
 - ・常設展示 年 6 回、2 箇月ごとに展示替え
 - ・企画展 年 4 本程度

・シンボル展 年3～6本

○アンケート調査結果

・来館者のアンケート調査で、展示に対する満足度は87.5%が満足という回答が得られた。この満足度の高さが目標を上回る実績に直結している。

○学校現場の観覧者数 48,241人

・目標に対する実績の割合は104.9%であり、目標とおりの成果を挙げることが出来た。

【自己評価】

○常設展示

- ・一般的な博物館の常設展示に見られるような時代区分による展示から離れ、テーマ性に重点を置き、展示資料の時代背景や文化の流れを理解できるような「モノからコトへ」の展示に努めた。
- ・資料保存に配慮しつつ、来館する度に新たな展示が見られるなどの多様な展示内容を展開するため、年に6回(2箇月ごと)展示替えを行った。また、そのことを伝えるため、展示テーマや目玉展示資料を設定(平成20年度～)して案内や広報を行った。
- ・博物館入口から常設展示室内に展示交流員を配し、博物館の概要から展示内容、資料解説などを行って利用者の要望に応えた。
- ・利用者が歴史や展示資料に深い理解や親しみやすさを感じられるように、学芸員によるワンポイント解説(平成20～同22年度)、展示交流員によるスルーガイド(平成22年度～)を実施した。
- ・当館独自の体験型展示は、五感で体験しながら歴史に親しんでもらうための展示であり、毎週日曜日に展示交流員による体験型展示イベント「遊ぼう!学ぼう!寺子屋ひろば」(平成22年度～)を行い、子ども達に対し歴史に親しんでもらえる工夫をしている。
- ・展示全体における利用者数の達成率は105.6%であるが、常設展示の利用者数については達成率86.8%であり、目標値に達しなかった。これは、常設展示の魅力が利用者十分に伝わらなかったことにも起因する。今後は、「代わり映えのしない」というイメージを抱かせる「常設展示」の名称変更や、歴史を学ぶ意義と楽しさ、魅力をさらに発信できるように展示を工夫する必要がある。

○企画展示

- ・企画展の利用者数の達成率は162.0%であり、目標値を大幅に上回った。これは山梨にゆかりの深いテーマを中心とした自主企画展に加え、話題性のある大規模な巡回展などを組み合わせてきた結果であると考えている。
- ・企画展は、県民の知的好奇心を喚起するような内容や、常設展示をさらに発展させた内容を取り扱う展示である。春や秋の行楽シーズンには、人々の関心の高いテーマに関する大規模な特別展、夏には家族で楽しめる企画展を開催し、その間に山梨の歴史により密着した内容や新たな研究成果を展示するシンボル展を開催するなど、利用者の様々なニーズに応え、最新の情報を発信するように努めた。
- ・展示がきっかけとなって地域の歴史文化の見直しや地域振興、観光資源の掘り起こし、伝統芸能の活性化に結びつくなど波及効果があった。
- ・おもちゃや昭和30年代の文化を扱った企画展では、祖父母と孫など家族や同時代をきた人々の間で話し合う場を提供した。
- ・信玄堤や明治四十年水害、ニホンオオカミ、レッドデータブックの生物の展示などによって、山梨の厳しい風土と克服の過程、人為による自然環境の変化を振り返り、歴史を通じて自然と人の関わりや現代社会の課題を考え直すきっかけを提供した。
- ・伝統芸能の実演、展示資料や情報の提供をよびかけるなど、県民の参加によって活発な企画展となった。
- ・展示資料や展示テーマに合わせて、わかりやすく効果的かつ資料に安全な展示手法やディスプレイを工夫した。ただし、難解な内容や、一般になじみのないテーマについては、一層の工夫が必要である。
- ・展示を解説するギャラリートークの回数を増やし、近年では企画展会期中毎日定時に学芸員もしくは展示交流員によるギャラリートークを行っている。また、主に団体の利用者には協力員がガイドツアーを行い好評を得ている。

- ・武田信玄、富士山など、山梨に関わる歴史や文化のうち、県内外で関心の高いテーマは、大規模な特別展から少規模の資料展示まで、視点や手法を変えて繰り返し展示し、利用者の要望に応えた。
- ・一般に公開されていない文化財を多くの人々が間近に見られる機会を提供するとともに、文化財を守り伝える重要性を伝えたことにより、企画展に対する県民の関心を高めた。
- ・連載記事や企画展ごとの子供向け記事など、地元の新聞に企画展関連記事を執筆・掲載し、情報発信と広報に努めた。また、話題性が高く大規模な企画で、地元のマスコミの共催を得て活発な広報活動を行うことができた特別展は、非常に多くの来館者を得ることができた。しかしながら、単独開催の企画展については目標人数に満たない場合もあり、展示内容と広報にさらなる工夫と研究が必要である。

(5) 企画交流活動について

【目標】

- 県内外に対し、「山梨の自然と人との関わりの歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努める。
- 学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努める。
- 県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努める。具体的には開館5周年目で7,700人の人々を県内各地に誘導することを目指す。

【成果】

- 企画交流事業の総参加数 74,799人（達成率 158.8%）
- 各種連携事業の実施件数 171件 参加者数 18,370人（達成率 238.6%）
- 展示会の内容に合わせ、また、職員の調査研究成果を踏まえたシンポジウム、講演会の開催、伝統芸能や伝統技術の実演、ワークショップなどの各種事業を実施し、「山梨の自然と人」というテーマに関連する事項について、県内外の大勢の利用者に親しみを感じていただけるような関連イベントを開催した。
- 山梨県生涯学習推進センターやことぶき勸学院など県内の生涯学習に関する機関と連携を図り、各種共催講座や出前講座を実施することで、県民の知的ニーズに応えるよう努めた。
- 博学連携事業については、授業の一環としての展示観覧の他に、出前講座の充実、子ども学芸員事業、未来の山梨の絵募集、職場体験の受け入れ、大学教育との連携などを実施し、博学連携の強化に努めた。
- ティーチャーズクラブの会員数が2,100名を上回り、学校の教員の利用拡大に努めている。
- 平成19年度からミュージアム甲斐ネット事業が実施されたことに伴い、参加館数が110館に増加し、ネットワーク独自のホームページの開設や夏休み自由研究プロジェクトなどの連携事業を実施している。

【自己評価】

- 企画交流事業に関しては利用者数の達成率が158.9%と当初の目標を大きく上回り、イベント等の活動に対する利用者の興味・関心が高いことが裏付けられた。
- また館内だけでなく、県内外各地の史跡や文化遺産、博物館、学校など館外において連携を図る事業である館外事業についても利用者数の達成率が238.6%と目標を大きく上回った。「交流のセンター」を図るという当館の使命実現に向け、当初想定していた以上にネットワークの強化につながる事業を意識的に実施した結果である。今後も同種事業を推進し、館外から館内へ、また逆に館内から館外へと大勢の人々を誘導できるよう事業活動に工夫を加えていきたい。

(6) 施設の整備・管理について

【目標】

- 山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努める。
- 魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努める。

○利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館5周年目で79,500人の利用者数を目指す。

【成果】

- 利用者数 84,190人（達成率105.9%）
- 安全快適な施設の確保
 - ・地震・火災への対応として「山梨県立博物館消防計画」「山梨県立博物館消火設備及び避難誘導に係る要領」、また、傷病者への対応として「山梨県立博物館急病（ケガ）人発生マニュアル」を定めた。
 - ・地震・火災等の緊急事態、緊急の傷病者対応について、毎年、職員研修を実施している。
- バリアフリー対策
 - ・『山梨県立博物館ガイドブック』や当館ホームページでバリアフリー対策について紹介し、利用者への情報発信を図っている。
- 資料保存に関しては、温湿度管理・空気質管理・照明・生物被害管理の観点から日常的な対応を実施している。

【自己評価】

- 県民に親しまれる博物館づくりをめざし努力してきた結果、利用者数105.9%と当初目標をおおむね達成することができた。
- 東日本大震災の発生に象徴されるとおり、今後も予期せぬ災害の発生が懸念される。被害を最小限にとどめられるよう、日常的に対応研修やマニュアル作りに努め、安全快適な施設の確保に努めていきたい。

(7) 情報の発信と公開について

【目標】

- 利用者が「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶ」ことについて支援することに努め、レファレンス等とおし5年間で7,000人が知的好奇心を満足できるように努める。
- 山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばホームページとおした場合には34万件のアクセス数を目指す。

【成果】

- レファレンス対応利用者数 15,495人（達成率221.3%）
 - ・平成20年度からは隔月、古文書相談日を開催し、レファレンス体制の充実化を図り、県内各地の資料所在情報の把握に努めている。
 - ・また、平成22年度からは出張古文書相談日を開催し、県内各地の教育委員会・文化施設と連携を図りながら、出前レファレンスサービスの強化を図った。
- ホームページのアクセス数 406,478件（達成率119.6%）
 - ・博物館の常設展示の展示替え内容、企画展やイベントの予告、資料や図書情報など博物館活動の最新情報を、ホームページを使って発信した。

【自己評価】

- 博物館資料の利用相談・ビデオ閲覧・複写サービス等の事業を実施し、利用者の定着化が図られた。また、古文書相談を通して、新たな資料の発見、掘り起こしにつながった。
- 情報の発信は、ホームページだけではなく、ポスター、ちらし、かいじあむ通信誌「交い」、各種イベント情報などの紙媒体を利用して、県内教育委員会や学校、公共施設等を中心に配布することで、博物館活動を周知し、一定の浸透化を図ることができた。

(8) 市民参画について

【目標】

- NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動の実施し、共同事業では開館5周年目で3,400人と交流できるように努める。

○利用者の視点から博物館の評価を行い、その成果を博物館の運営改善に向けて反映するよう努める。

【成果】

○NPOとの協働事業

- ・開催件数 56件
- ・参加者数 5,340人（達成率 157.1%）

○協力会（ボランティア）の登録者数 各年度70～80名

○協力会（ボランティア）の活動

- ・博物館の各種イベント、学校や団体への展示解説、ミュージアムショップの運営、お庭のガイド、畑の耕作、資料整理など幅広い分野での支援を受けている。一方で、ボランティアを対象とした研修旅行や研修会などを実施し、茶話会などを通してコミュニケーションを図る努力をしている。

○利用者による博物館評価（第Ⅱ章第4節 23頁を参照）

- ・平成18年度以降、毎年、1～2回の割合で通信簿ツアーを実施し、その意見を踏まえて館の改善や予算に反映している。

【自己評価】

○開館前から県民参画型の博物館を旨とし、NPOやボランティアと連携を図る事業を実施し、「参加体験・交流」型博物館を目指す当館を特色づける事業として県内外から注目を集めた。

○NPOとの協働事業は、難しくなりがちな博物館の内容をわかりやすく伝えることに大きく貢献し、リピーターの確保にもつながっている。また、利用者参画型の博物館評価の手法である「通信簿ツアー」の定期的実施など、当館独自の事業を実施しており、こうした連携活動自体が県内外から高く注目され、マスコミ取材や業界紙等で広く紹介された。

○ボランティアの活動は、博物館活動にとって大きな役割を担っており、その存在無しでは考えられない状態となっているが、その一方で会員数が伸び悩んでいる。その原因を把握し、博物館のボランティア活動が生き甲斐となるような魅力ある活動や事業の展開が必要不可欠である。

（9）組織・人員について

【目標】

- 職員各自の資質向上ができる環境整備に努める。
- 第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努める。

【成果】

○職員各自の資質向上のために、研修体制の充実化に努めている。専門職員については専門研修に参加できる体制を築き、毎年1～2名の学芸系職員が1週間程度の長期研修に参加している。

○非常勤職員、協力会（ボランティア）をはじめ館員全員が、利用者をより暖かく迎えるために、接遇研修の充実化を平成21年度から導入し、毎年、継続的に実施している。

○第三者機関については、

- ・「みんなでつくる博物館協議会」（利用者の立場からより良い博物館作りへの提言）
 - ・「運営委員会」（運営全体についての検討）
 - ・「資料・情報委員会」（資料収集と情報活用に関する提言）
- の3つを設けている。

・各会ともに年2～3回程度の頻度で実施し、そこで出された意見を館運営に反映させている。

【自己評価】

○博物館活動については、常に外部委員会の意見を聞く中で方向性を定め、実際の事業実施に取り組んできた。

○その結果、質の高い展示や事業展開が図られていると判断している。しかし、一方で「博物館は敷居が高い」という一般からの評価もあり、その改善に向けた取り組みがさらに必要である。

(10) 外部支援について

【目標】

○館の運営活動に資するために外部支援体制の導入に努める。

【成果】

○外部支援については、積極的に研究助成団体から研究助成を受けるように努めた。また、平成21年度に文部科学省から学術研究機関指定を受けたことに伴い、文部省の科学研究費助成金を申請し易い体制を整え、研究助成を受けている。

○一方、県内外の個人や団体との連携を積極的に行った。地元関連団体の協力をあおぎながら、山梨の農産物や食物の試食体験イベント、生涯学習グループと連携してコンサートをはじめ各種イベントを開催した。

○平成19年度に笛吹市の森林火災時に市からの要請に応え、市内の寺院にある文化財の緊急避難を実施した。また、東日本大震災では、文化庁や日本博物館協会の要請に応え文化財レスキュー活動への派遣を行なった。

○平成22年度に当館が立地する笛吹市と学校教育・生涯学習・文化・観光等の振興に関して深く連携を図るための協定書を締結した。

【自己評価】

○「みんなで作る博物館協議会」では博物館職員ばかりではなく、外部の力をもっと活用した運営の必要性への提言があった。そのため、現在では、「やまなし研究広場」など市民参加の事業などを取り入れた他、ロビーでのコンサートなど、さまざまな団体からの博物館活動への参加を模索している。

○連携の協定書については、今後、県内各地で連携の輪を広げ、地域の中の博物館としての役割を果たすことが出来るよう努めていきたい。

第4節 「通信簿ツアー」による評価

【評価の方法】

- 「通信簿ツアー」とは利用者の視点から山梨県博を評価する（通信簿を付ける）というイベントである。実際のツアー運営にあたっては県民の立場に立つNPOに委託をし、評価項目の選定から実施、さらに結果のとりまとめなど事業の全般にわたって利用者と協働して実施するという方法をとった。
- ツアーの具体的流れとしては、まずメーリングリストを立ち上げて参加者を募り、応募した人同士で山梨県博の評価項目について意見交換を積み重ねる。その結果を『博物館の通信簿』というA6版40頁弱程度の評価項目集としてまとめ、ツアー当日にそれを参加希望者に配布する。ツアー参加者は評価項目集を持って館内を巡りながら、回答を記入していく方式をとった。
- ツアー参加者によって記入された『通信簿』を事務局側で回収し、集計する。寄せられた回答はいずれも利用者の側から山梨県博へ対して真摯に寄せられた生の声であり、これらの意見を積極的に取り入れ、館運営に生かして活性化につなげることをねらいとした。なお、各年における実施状況は各年度の『年報』に記載している。

【評価の対象】

- 評価対象となる事項は展示・イベントをはじめ、アクセス、第一印象、館内の快適さ、資料閲覧室・地域インデックス（図書・情報コーナー）、ショップ、レストラン、庭園など一般利用者向の諸サービス全分野が対象となり、その総数は100項目にも及ぶものである。

【実施年度】

- 平成18年度以降、毎年1～2回の割合で実施

【評価者数】

- 907人（平成18年度から平成22年度まで）

【実施状況と評価】

- 本ツアーは山梨県博開館1周年を記念して平成18年10月15日に初開催をして以来、毎年、継続的に実施したことにより、山梨県博の持つ「強み」と「弱み」が明白に浮かび上がった。
- それを端的に示すのが「もう一度、この館に来たい？」という評価項目に対し、ある参加者からの「県民が来れば楽しめる場所ではあると思うが、しくみやしかけが巧妙すぎて、一般人は理解するまでにあきてしまう。分からない。少し説明が入ると、とても楽しいのに、もったいない」という声である。これは山梨県博の展示の内容や諸サービスは潜在的に高い魅力を有するものの（強み）、現状では利用者には十分に認知されていない（弱み）ことを示したものである。
- 展示を例にすると、館側としては実物資料に映像やジオラマ等を複合的に組み合わせ、誰にでも楽しく山梨の歴史を学べるように工夫したつもりであった。だが、利用者の側ではそうした展示の楽しみ方が十分に伝わっておらず、それが不満へ直結していたことが明らかとなったのである。こうした問題は他のサービスにも該当し、それを踏まえて同年以降は、館内各所における案内板の増設や、広報に力を入れる等の改善を進めてきた。
- 通信簿ツアーによる運営の検証、改善というサイクルを毎年繰り返したことで、4回目の結果では、展示はもちろん、入館料、案内の仕方や休憩コーナーなどの館内アメニティ、ショップ、情報コーナーなど多様なサービスについて一定の満足度を得ることが出来た。当館の諸サービスが定着化しつつあり、これまで実施してきた諸改善策も一定程度の成果を挙げていることが確認され、県立博物館のサービスの基本はほぼ完成したと捉えられる。
- 一方、博物館の諸サービスの認知度を高める努力、いわば利用者に「見える」運営を心掛け、県立博物館が有する潜在的魅力を積極的に情報発信することがまだ不十分であり、そのことが今後の大きな運営課題として求められていることが判明した。
- 以上のように毎年継続的に「通信簿ツアー」を実施し、利用者との対話を重ねることで、博物館運営も新しい段階へと開けていく見通しが得られたと結論付けられる。

第5節 総合評価と今後の課題

(1) 運営

- 5周年目までの総利用者数は120万人余りとなり、当初の目標値に対し112%を超える達成率となった。これは人口約87万人の山梨県民全員が一度以上は何らかの形で本県の事業活動に関わったことになり、開館以来様々な博物館活動を通して、県民にも一定の浸透が図られてきたと評価される。しかし、一方で、いまだ当館に来館したことのない県民も少なくはないことから、当館の使命について県民の理解を得るようますますの努力が必要である。
- 利用者からのアンケートや外部委員会から、当館は「敷居が高い」というイメージを持たれ、そのことが利用者数の獲得を難しくしていることが指摘されている。今後は展示や企画交流事業など当館の全事業について、より県民に親しまれる内容とするための工夫が課題である。
- 開館してから5周年年度を経過し、各事業の平均的な利用実績についてのデータが蓄積されたことから、今後、実際の利用結果に基づいてより適正な目標を立てることが次の5周年年度の運営にとっての課題である。
- 本総合評価を踏まえ、次の5箇年（開館10周年年度目）の飛躍に向けて、さらなる運営の改善を図っていく必要がある。

(2) 調査研究

- 学術研究機関の指定、大韓民国 国立清州博物館との学術交流協定など調査研究機関としての充実化を図り、研究の基盤がこの5箇年で構築された。
- 外部資金の導入を行う中で、県内外の共同研究者と共に調査研究を進め、その成果を展示や博物館事業活動に反映する努力が必要である。
- 今後は市民参画の調査研究などにも取り組み、博物館を中心として多くの人たちが集まり情報交換し、交流ができるような取り組みも必要である。

(3) 資料収集、保存及び活用

- 博物館で収集した資料情報に関しては、順次、整理作業、データベース化を進め、ホームページ上で資料数83,082件、図書件数35,107件の公開を行なった結果、資料閲覧室を利用した資料調査や学習を行う利用者が確実に定着化してきている。
- 今後、検索可能件数を増やし、収集資料に対する公開率を高めることによって、利用者の資料情報の活用促進をさらに充実することが必要である。

(4) 展示

- 展示の利用者数は、常設展示、企画展示を含め633,426名で、複数回利用するリピーターも増加し、地域の歴史に興味関心を持つ利用者の確保につながっている点は一定の評価ができる。
- 常設展示は、利用者が目標に到達していないことから、その魅力向上とアピールが今後の課題である。
- 企画展示は所期の目標を上回り、武田信玄や富士山、食文化、信仰など山梨の歴史・文化・生業・風土について伝えるとともに、アンコールワットやモンゴルなど世界の歴史・文化を紹介し、県内外の好奇心や向学心に応えた。今後も県民が深く学び、興味関心を持てるようなテーマと内容で、自主企画展と巡回展などをバランスよく組み入れて行く必要がある。
- 山梨の歴史や文化に密着した企画展は、入館者数はそれほど伸びなくても、展覧会図録が売り切れたり、地元のマスコミに多く取り上げられたり、関連のある市町村の活動や観光に結びつくなど波及効果が認められる。今後も、山梨の県立博物館として期待される役割に応える努力を続けていく必要がある。
- 今後は利用者数の獲得とともに、ある程度、収益性を確保することも課題である。

(5) 企画交流活動

- 企画交流事業の総参加数は74,799人で、所期の目標を大きく上回ることができた。それは、ハブ博物館の考えを

基本に、館内のみならず積極的に館外事業を取り組んだこと、NPOやボランティアとの協同作業により弾力的で楽しい事業を展開したことの成果と考えられる。

- 今後も引き続き、利用者の満足度の高い新鮮な企画交流事業を実施すること、館運営全体のバランスをみながら事業実施数を調整すること、ボランティア等の諸団体との連携を深めることが課題である。
- 博学連携の強化については、継続的に教育委員会内全体で取り組んできた。しかし、現状では年間の学校利用は、県内児童・生徒総数の1割程度である。今後、さらに学校利用の促進に向け、学校現場の教員との意見交換、交流などを行い、教育現場でも利用しやすい博物館プログラムの提供を目指したい。

(6) 施設の整備・管理

- 全ての利用者にとって安全・快適に利用できる環境となるようマニュアルの整備と恒常的な研修を継続的に実施し、災害時に備えることとしたい。
- 博物館資料に関しては、県民からも信頼されるよう適切な保存管理体制を維持するよう努めたい。
- 東日本大震災のような大規模な災害にも対応できるように、職員の危機管理意識を高め、県内市町村や博物館施設、文化財所有者との連絡関係、ネットワーク化を構築する必要がある。

(7) 情報発信

- レファレンス対応利用者数 15,495 人、ホームページのアクセス数 406,478 件を数え、博物館の利用者サービス、情報に関しては、一定の割合で浸透していると評価される。
- 今後も充実したレファレンスサービスの向上に努め、県民の知的好奇心を満足させる博物館を目指すことが課題である。
- ホームページのアクセス数を分析し、入館者数の増減と比較することにより、双方が相関する関係を捉えることができた。これらの予測を基に、広報・PRの展開を戦略的に行う必要がある。

(8) 市民参加

- NPOや協力会（ボランティア）との協働事業は、難しくなりがちな博物館の内容をわかりやすく伝えることに大きく貢献し、リピーターの確保にもつながっている点で評価される。
- 協力会（ボランティア）の登録者数については、毎年、平均70～80名を推移している。今後、登録会員数100名となることを目指し、登録している協力会員にとっても魅力ある活動を展開することが課題である。
- 今後、NPOを介して県内外各地の団体、ボランティア、個人と連携を深めることで質の高いサービスを継続的に提供することが課題である。

(9) 人事・組織

- 職員の資質向上のために、今後も研修体制の強化に努める。
- 「みんなで作る博物館協議会」「運営委員会」の両輪で、博物館活動に関する方針を多角的に議論してもらい、それを活動の中に活かしてきた。
- 資料収集に関して「資料・情報委員会」での検討結果に基づき、適時適切に資料情報の収集に努めた。
- 今後もより利用者の立場に立った意見に対し常に傾聴し、開かれた博物館を目指す必要がある。

(10) 外部支援

- 当初、博物館が外部からの支援を受けることを中心に設定された評価項目であるが、研究における外部資金の導入が大幅に進み、他の博物館活動に対しても個人や団体から支援を得て様々な事業を展開できるようになった。
- 一方、実際の博物館活動の中で、博物館が外部に向かって支援する場面や必要性が出てきた。
- 東日本大震災のような大規模災害時に、県立博物館は文化財保護機能も県内から求められている。文化財レスキューなど人的・物的支援体制を構築し、県内個人・団体等と積極的にネットワークを整備することが今後の課題である。

山梨県立博物館総合評価報告書

—— 開館5周年度目までにおける評価結果 ——

発行日 2012（平成24）年3月26日

編集・発行 山梨県立博物館

〒406-0801

山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

TEL 055-261-2631

印刷 株式会社 内田印刷所
